



四国ブロッククラブネットワークアクション 2019 開催報告

日 時： [1日目] 令和元年 11月9日(土) 13:00 ～ 17:20
[2日目] 令和元年 11月10日(日) 9:00 ～ 12:00

会 場：高知サンライズホテル

内 容：テーマ「スポーツを通じた地域コミュニティの創造」

[1日目]

1. 事例発表「成長のカギは地域の特性を生かしたクラブづくりと行政との連携」
2. 事例発表「都会派総合型地域スポーツクラブウェルネスファムのかたち」
3. 講演「プロスポーツと地域スポーツとの連携」
4. 共通プログラム「総合型クラブ登録・認証制度の創設に向けた情報共有」

[2日目]

1. 講演・グループワーク
「総合型地域スポーツクラブの現状と課題及び解決策の検討」
～「一部のひと」から「みんな」のスポーツへ～

参加者：71名

【概要】

・総合型地域スポーツクラブの運営に必要な情報や課題解決に向けた具体的な取り組み事例等について講演やグループワークを通し知見を深めるとともに、各クラブ間の情報共有によるクラブ育成・支援のためのネットワーク強化と各都道府県総合型クラブ連絡協議会間の連携体制を促進しました。

・総合型地域スポーツクラブのより一層の質的向上を目的とした施策である「登録・認証制度」について情報共有を行いました。

【内容】

[1日目]

事例発表「成長のカギは地域の特性を生かしたクラブづくりと行政との連携」

事例発表者：NPO 法人海陽愛あいクラブ クラブマネジャー 轟 真美氏

■クラブ概要

- ①会員数約 300名 (人口比率 3.16%)
- ②自己財源率 50%
- ③トレーニングジム設置

■事業の紹介

- ①送迎付き介護予防事業 (H27～)
- ②サーフィン体験スクール (H28～)
- ③健康ポイント事業

■まとめ

・町の課題解決に向け行政との協力体制をつくることにより、事業の効果が高まると共にクラブとしても成長することができた。



事例発表「都会派総合型地域スポーツクラブウェルネスファムのかたち」

事例発表者：一般社団法人ウェルネスファム 事務局長 平井 郁子氏

■クラブ概要

- ①会員数 52 名
- ②予算規模 300～400 万円
- ③在勤者向けの事業を展開
- ④全指導者が日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格取得



■事業の紹介

- ①エキスパート派遣事業
- ②事業実施前に意見交換の時間を設ける
⇒「作文文章スキルアップ講座」
- ③水泳教室事業
- ④貯筋運動（プライベートレッスン含む）事業

■まとめ

- ・会員の声をひろい、形にしていくことで地域のニーズに則したクラブとして成長できた。
- ・また、大学生との連携で次世代の指導者の育成も行っている。

講演「プロスポーツと地域スポーツとの連携」

講演者：一般財団法人どんぐり財団 よろずや広島北
ゼネラルマネジャー 関口 昌和氏

■ウエスタンリーグ広島東洋カープとの連携

行政、地域住民、大学生と連携し事業を実施し、人口 3,800 人の町に 4,000 人が集まった。

■ソフトテニス/NTT 西日本ソフトテニスクラブとの連携

NTT 西日本ソフトテニスチームに練習拠点を提供することで、地域づくりに繋がり、また町で監督を雇用することにも繋がった。



■まとめ

- ・事業実施時にはクラブで抱え込まず、地域を巻き込むとクラブの負担も少なくなり、行政の協力も得られやすくなる。（マネジメントの視点が重要）
- ・クラブとしての明確な目標設定と、達成に向けた仕組みづくりが大切である。

共通プログラム「総合型クラブ登録・認証制度の創設に向けた情報共有」

■制度の背景と必要性について（四国ブロック常任幹事・武市委員長）

■制度原案概要（日本スポーツ協会・小澤課長補佐）

■グループワーク

「登録・認証制度実施に向けた課題について情報交換」

■発表・まとめ

- ・将来的な登録料の値上がりするのではないかと心配。
- ・分かりやすいメリットが必要。
- ・スポーツ庁等と連携した都道府県や市町村行政への周知が必要。
- ・人口の少ない市町のクラブでは指導者の基準達成が困難ではないか。
- ・人口の少ない市町のクラブでは行政との連携がとれているところが多いと思われる。



講演・グループワーク「総合型地域スポーツクラブの現状と課題及び解決策の検討」 ～「一部のひと」から「みんな」のスポーツへ～

講演者：特定非営利活動法人 しまもとバンブークラブ 理事
国立大学法人大阪教育大学附属高等学校平野校舎 教諭 松田 雅彦氏

■講演

- ・スポーツは 1880 年代に、学生が主体的に運営する「スポーツクラブ」を通して広まったが、第 2 次世界大戦時には学校教育における国防・鍛錬の手段となった。
- ・今日の学校部活動の課題
 - ①学校卒業後のスポーツ環境の確保
 - ②教員の部活動指導による負担の増加
- ・課題解決に向けた具体的プランの提示
⇒中学校の中に OB・OG が中心となった地域クラブの設置。



■グループワーク

(2 人一組に分かれ、三角ロジック体験ワークを実施)
総合型地域スポーツクラブの必要性を、根拠と論拠を用いて説明できるようになることが重要である。

【まとめ】

- ・参加者は、多くの成功事例や先進的な提案等、今後の運営に直接反映できる知見を得ることができた。また、グループワークなど情報交換の場も多く設けられており、各クラブ間のネットワークを拡充することができた。
- ・登録・認証制度について各県意見聴取を踏まえた制度の修正の方向性を確認し、制度実施に向け各クラブが抱える課題について情報共有できた。
- ・この会で得た内容を各県に持ち帰り、実行に移すことが大切である。
- ・さらなる参加者の拡大に向け、魅力的で参加しやすい会となるよう次年度に向け取り組みたい。

(四国ブロッククラブネットワークアクション実行委員長 武市 光徳)

※本ネットワークアクションは、東京 2020 応援プログラム(スポーツ・健康)として実施しました。

